



令和7年度あま市平和体験学習



8月7日(木)・8日(金)の2日間、市内中学生の代表10人が平和推進事業の先進地である広島県広島市を訪れ、広島平和記念資料館・袋町小学校平和資料館の見学、各中学校の生徒が平和を祈念して折った千羽鶴の献納、被爆体験講話などを通して戦争の悲惨さや平和の尊さを学びました。

終戦から80年の歳月が流れ、悲惨な戦争の記憶が次第に薄れつつある現在、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び次世代へ継承していくために私たちは何ができるでしょうか。

七宝北中学校3年 くぼた あきよし 窪田 晃慶

「戦争って本当にあったんだ」それが広島を初めて訪れた僕の印象でした。教科書や画面上で知っていた原爆や戦争は決して過去のことではなく、今でもその悲しみや苦しみが続いているのを実感しました。それなのに、この瞬間も世界のどこかで争いが起きています。悲惨な日々を送っている人がいます。当たり前で過ごせる日常こそが、平和なのだと思います。

戦争を知らずに僕達は育ちました。戦争を知らないままでいられるために何が出来るのでしょうか。自ら考え行動していきたいです。

美和中学校2年 すずき まなほ 鈴木 愛穂

「当時の広島は命の選別をしなければいけない状況だった。救護隊は、そこら中にいる重傷者には目もくれず、助けられる人だけを助けていた」と、被爆の方が涙ぐみながら仰っていたことが印象的でした。

核爆弾はたった一発で多くの人の人生を壊します。二度と悲惨な状況を作らず、平和の尊さを伝え続けるためにも私たちが声をあげなければなりません。

被爆者が減り続けている今、小さな声でも途切れさせることなく繋げていくことが私たちの使命だと思います。